

「ハツ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 23 年 11 月 7 日（月）10:00~12:00

さいたま新都心合同庁舎検査棟

発言者：さいたま 13

私は富士見市に住んでいる●●と申します。ちょっと自己紹介させていただきますと、私は、飲水思源の会というのをやっています、水を飲むときはやっぱり源のほう考えて感謝をすると、そんなことをやっております。ちょっと座らせていただきます。

私、実は県に入った時が、県の職員だったんですが、かつて県の人口 280 万人だった。いま 720 万ですよ。人口が日本中増えた。そんな状況の中、所沢なんかは昔から水がなくて、あそこには嫁をやるな、なんて話があるんですが、地下水分としては 1 万人分位しかないんですね。あそこは 30 万人だったんですよ、人口が。それで地盤沈下が起きてまして。そりゃそうですね、構わずあれしたもんですから。町の真ん中でありながら、ちょっと雨が降るともう臍の上まで水浸かる。それでいて地盤沈下が起きたと。私は夜中の苦情だとか用地交渉 30 年やってきたんですよ。で、地盤沈下が起きちゃいまして、そのところに行ってみましたら、地盤沈下の落差のところなんです若い男女が即死ですね。目なんかみんな飛び出しちゃって、脳ずいなんかみんな出ちゃって。柱とか何かはみんな基礎が打ってあるんですけど、他みんな下がっちゃって、そんなことで、そんなことが何件か起きたもんですから、さすがに所沢も懲りて、利根川の水を飲むようになったという状況ですね。やっぱり地盤沈下とは恐ろしいもんだと。相当いろんな工夫をされたみたいですが、1 回地盤沈下したものをもう上げる方法はないと。所沢なんか 200 年先の、地下水の専門の人たちに言わせると 200 年先の地下水まで飲んじゃったと、そんなことを言われています。そんな関係で、埼玉県は地下水依存から表流水のほうへ、移動したわけですよ。私は、平成 8 年、9 年って水資源課へちょっとおりました、水資源課の仕事って何をやっているかと言うと、だいたい漏水対策なんですね。埼玉県は非常に水が少ないもんですから、しょっちゅう漏水対策をやっているんですよ。特に 8 年、9 年って酷かったんですよ。朝になると、圧が少ないもんですから、子供さんのウンコは流れるのですが、お父さんがすると流れないんです。非常にトイレ戦争とかがあって、そういう苦情があって、私も「水をちょっと汲んでおいて流せば大丈夫ですよ。」ってなことを言ったのですが、相手側にそれが聞こえなくてですね、あんたのお勤めどちらですって、東京だって言うから、東京の方だったら東京は取水制限をしていないから、ウンコは東京ですて下さいという話しをしちゃったらですね、これが大騒ぎになってですね。私、知事のところに謝りに、土屋知事がなりたての頃に謝りに行ったら、表面はともかく、埼玉県は大変なことが分かったんだからいいんじゃないかと言われ、なんとか首は繋がったというふうな状況ですね。埼玉県の場合には、もう 400 万人くらいの分しか降った雨が無いんです、720 万、そうするともう利根川の水を飲むだけじゃなくて、群馬の方から水を飲まない限りはどうしようもないんだと。そこで、上下流交流だとかそういうのをやってみて、埼玉の子供は水を飲む前に必ず群馬の方へ頭を下げて、それから飲むようにしようというふうな運動をいづれにしてもやってみて、長野原と埼玉、あっちのほうへ小っちゃな家を造って、あそこに住んでみなくちゃ分からないというもんでと、行ったり来たり今しているところでございます。彼らの言うには、なぜ今頃になってパブリックコメントだなんだかんだとやっているんだと。国のほうは、国の計画というのは、もっとしっかりしたもんじゃないんだろうか。みんな我々苦渋の選択をして、協力して来

もと川流れていたところが流れやすいんですね。カスリーン台風の際は幸いなことに、吾妻流域、雨一滴も降っていませんでした。これがもし降っていたら寛保の大水害と同じですね。川越の南古谷の久下戸というところに奥貫友山って、すごい立派な人がいて、私財を投げ打って堤防を造ったり何かしたり。その人が翁大水記っていうの書いているんですね。毎日、南古谷辺りが荒川の勾配が緩くなる場所から、毎日死体が、水死体が40人50人流れて来たと。水を飲んでいないと。日本のあの水死者、私もあの洪水でやった人があるんですが。女の人なんか何も服なんか着ていないんですね。水も飲んでいない。日本の場合はタイの方と違って、土石流に近いもんですから、だいたい水にあった瞬間にもう全身打撲で即死に近い状態なんですね。服なんか全部ぼろぼろに剥げて、目なんかこんなになっちゃって、もう見るも無惨な形になっているんですね。そんなことで、やっぱりその洪水がここに起きると、カスリン台風の際はここが切れてなったんですが、あの時はまだ東京都も地下空間なんか高度に利用されていないんですね。ところが今は地下空間が相当高度に利用されていて、荒川が破堤しただけでも90いくつもの地下鉄の駅が駄目になる。地下鉄の駅が駄目になるってことは、地下に水が入って来るといことなんですね。去年のNHKの報道なんかで見ますと、だいたい毎秒15m位の速さで走っていると。そうすると、ウサイン・ボルトのような人が、あの人がだいたい1秒で11m走る。ところがその地下を走って来るのは15mだと。あの人より速くないと逃げられないということなんですね。だから地下に入っていた人はもう助からんっていうふうな状況なんですね。やっぱり一番心配なのは、あの利根川の堤防がいま非常に痛んじやって。何はさておいても、国交省の方いらっしゃるが、早く上流吾妻流域に雨が200年おきに大雨が降るとだいたい江戸が吹っ飛んでいるんですね。そんな関係もあって、もう前のあれから160年くらい経ってますんで、あと40年くらい。あと最近、非常にその大雨が降る周期になっている。平成13年以降3倍になっているというんですね。集中豪雨が。この後ろの絵を佐久間先生なんか見ますと、2025年に地球規模の大渇水が起きると。その時カナダだけだそうです。あとはもうどうしようもない。食料も同時に無くなる。ということで、今の倍くらいダムを造る必要があるだろうと。先生、ダムなんか造れる場所なんて本当に限られている。埼玉県、ダムなんか造れるところ無いんだと。それにしても、60億人超したというけれども70億人超しているんですね。70億人超してですね、食料だけは、いくら金を出しても手に入らなくなるだろうと。それは自国の人々が餓死しているのですね、日本に食料を送る訳にはいかないだろうと。そのあと、沖大幹東大教授って、これは食料の輸入で日本はその分だけ水を使わないで済んでいるんだと。これを水に換算するとですね、一人当たり毎日ドラム缶1本半の水を輸入している。一人ですよ。赤ちゃんも全部入れて。ということだそうです。だから自給率10%上げるのに100億トン以上もの水が必要なんですね。誰か水は余っているとか何とかといっている人もいますが、とんでもない話で、世界的にウォータービジネスとかいろんなことやっていましてですね、もういま世界中どこに目が向いているかということ水の確保なんですね。ところが、日本だけが脳天気なことをいろいろと言っているようですが、それを一番親身に考えているのが、埼玉県なんです。埼玉県は水が本当に無いんです。暫定水利権なんですよ。暫定水利権ってのは、川に水が豊かに流れていない限りは取れないんです。そういう渇水対策をずっとやってですね、本当にもう、今でも夢に見ますよ。利根川8ダムの水位がいくつになったとか。また心配になって夜中に、その見に行ったりとか。そういうふうなことで、また、埼玉県は昔の利根川の通り道だったということで、非常にその洪水にも遭いやすいと。ですから、2年の遅れているのは、ものすごいその大きな遅れになっちゃうんで、いまからでも予算を集中して、一刻も早く八ッ場ダムを完成させて、その洪水その他についてですね、是非備えて欲しいなど。

やっぱり地元の人たちも2年の足踏みがものすごく打撃を受けているんですね、精神的に。だから

20 軒あった川原湯温泉の旅館が 4 軒になっちゃったんですよ。私があつた埼玉の子供を修学旅行で向こうに連れて行くんだと皆さんを元気づけていたんですが、もう旅館が 4 軒になっちゃたんで。もう●●さん、もう駄目だと。もうこんな状態では国もなんにも信用できないということを非常におっしゃっているんですね。是非予算を今までの分を取り返すような形で付けていただいて、一日も早い八ッ場ダムの完成を是非お願い申し上げたいと思います。以上でございます。どうもご静聴ありがとうございました。

以 上